

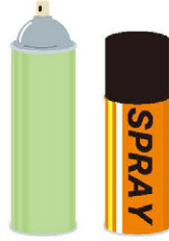
車両火災を防ぐポイント

日常の注意

- 車内に火災の原因となるものを放置しないようにしましょう



ライター・オイル



スプレー缶

高温下で破裂・発火するおそれがあります



ペットボトル・芳香剤・透明な吸盤など

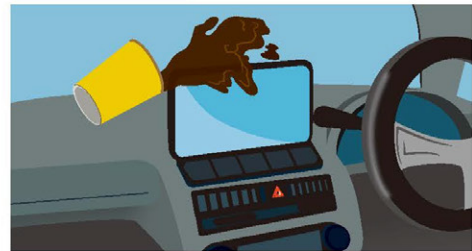
レンズの働きをして火災につながるおそれがあります

モバイルバッテリー・電動工具・電子たばこ等のリチウムイオン蓄電池を含む製品

- 喫煙時は灰皿を使用し、喫煙後は確実に火を消しましょう



- カーステレオ・スイッチ等の電装品に飲み物をこぼしたり、ぬらさないようにしましょう



- 冠水した道は走らないようにしましょう
浸水した場合は、速やかに点検を受けましょう



- 不適切な改造は行わないようにしましょう
電装品の取り付けは専門業者に依頼しましょう



マフラー

電装品

- 車両等のボディカバーには防災製品を使用しましょう

防災製品
(燃えにくいもの)



日頃からの対策

- 車両は定期点検・日常点検を確実に実施しましょう

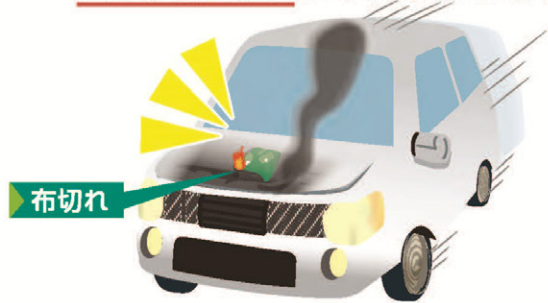


エンジンオイル・冷却水は定期的に点検し、補充しましょう

エンジンオイル・フィルタは定期的に交換しましょう



- 点検・整備の際、布切れなどの燃えやすいものをエンジンルームに置き忘れないようにしましょう



- 異常を感じたら速やかに専門家による点検整備を受けましょう



- リコール情報を確認し、リコール対象の車両は速やかに整備を受けましょう



車両火災にあったら・遭遇したら

- 万が一に備えて、車両火災時の対応を確認しておきましょう

1 走行中なら

- ハザードランプを点滅させて周囲の車両に異常を知らせましょう
- 可能な範囲で、安全な場所に車を停車しましょう

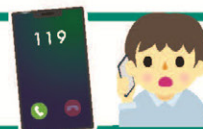


停車中なら

- 周囲の人に火災発生を知らせましょう



2 119番しましょう



3 身の安全を確保し、可能な範囲で初期消火を行いましょう



4 安全な場所に避難しましょう

